

教友會雜誌(のちに『教友』)

号	年	月	日	種別	タイトル	著者	頁数	備考
1	1903	6	1	口繪	曹洞宗第二中學林圖		ページ無	
1	1903	6	1	訓諭	開林式唱歌		ページ無	
1	1903	6	1		発刊の辭		1	
1	1903	6	1	論説	出家の本領	石月無外	4	
1	1903	6	1	論説	宗門教育論	菊池大仙	5	
1	1903	6	1	論説	佛陀の人格	田中大榮	9	
1	1903	6	1	論説	東北青年僧侶の覚悟	大石堅章	12	
1	1903	6	1	論説	宗教教育に就て	三好愛吉	15	
1	1903	6	1	論説	道心の修養	五十嵐爲橋	22	
1	1903	6	1	論説	國文學と佛教との關係	飯坂圓收	28	
1	1903	6	1	論説	言行論	菅澤脩己	33	
1	1903	6	1	雜録	室の本日記	濱田廉(紅於讀仙)	36	
1	1903	6	1	雜録	萬歳稱呼辨	菅澤脩己	43	
1	1903	6	1	雜録	格言いろいろは教訓	菅澤脩己	46	
1	1903	6	1	論壇	學林に對する吾人の希望	上館全靈	50	
1	1903	6	1	論壇	無常觀を論ず	鳴海祐造	53	
1	1903	6	1	論壇	協同一致の必要	佐々木瑞妙	57	
1	1903	6	1	論壇	所感一則	平田素玄	58	
1	1903	6	1	論壇	宗教と文明	戸田文雄	60	
1	1903	6	1	論壇	感慨論	齋藤量孝	61	
1	1903	6	1	論壇	吾人の希望	松永道佩	63	
1	1903	6	1	文叢	七北田紀行	中幡義堂	65	
1	1903	6	1	文叢	鈴木瑞孝君を弔ふ	木村雄山	68	
1	1903	6	1	文叢	雨	金子魯道	70	
1	1903	6	1	文叢	旭日觀	長谷川哲龍	71	
1	1903	6	1	文叢	仙臺に遊ぶの記	本田賢羅	73	
1	1903	6	1	文叢	日記の一節	大沼得壽	78	
1	1903	6	1	文叢	出郷關	矢萩賢宗	78	
1	1903	6	1	文叢	「ロバートブルース」と蘇國の婦人	梁山治同人	80	
1	1903	6	1	雜纂	試験文學一束		83	
1	1903	6	1	詞藻	和歌、漢詩、新體詩、俳句		88	
1	1903	6	1	記事	教友會記事、學林記事、開林式記事		98	
1	1903	6	1	附録	教育會記事			
2	1904	6	1	本領	軍國に於ける吾人の覚悟		1	
2	1904	6	1		過去の日本國民	濱田廉	4	
2	1904	6	1		青年僧侶修學の方針	前田慧雲	17	
2	1904	6	1		佛耶兩教の比較	海老名彈正	21	
2	1904	6	1		大徳小徳論	菅澤脩己	27	
2	1904	6	1	評論	服裝と道徳の關係		33	
2	1904	6	1	評論	極大と極小		35	
2	1904	6	1	評論	宗教家と旅行		38	
2	1904	6	1	評論	誰か吾人に訓ふるものゝ		42	
2	1904	6	1	評論	仙臺に於ける釋尊降誕會		46	
2	1904	6	1		呼子鳥に	中林悠山譯	51	
2	1904	6	1		晚鐘の圖に題す	青柳泰堂	52	
2	1904	6	1		實験の宗乘	五十嵐爲橋	53	
2	1904	6	1		七生人間	飯坂圓收	56	
2	1904	6	1		蓬かり舟	中幡荷紅	59	
2	1904	6	1		自炊の記	同人齋員	62	
2	1904	6	1		鳥海山紀行	近藤閑禪	65	
2	1904	6	1		たむけ草	三河素秀	68	
2	1904	6	1		松嶋に遊ぶの記	堀梅天	69	
2	1904	6	1		仙臺の春	國下大慧	71	
2	1904	6	1		野の曲	門脇五柳	74	
2	1904	6	1		朝の歌	酒井小民	74	
2	1904	6	1		義憤血涙	青野祖堂	75	
2	1904	6	1		あこがれの春	大沼得壽	76	
2	1904	6	1		春雨日記	鳴海夜濤	79	
2	1904	6	1		曹洞宗第二學林修學旅行の歌	飯坂圓收	85	
2	1904	6	1	雜報	學林記事、教友會記事		86	
3	1905	7	7	本領	光輝ある名譽と責任		1	
3	1905	7	7	講演	豊太閣側面觀	文學士 濱田廉	4	
3	1905	7	7		校風問題	特別會員 鳴海祐造	12	
3	1905	7	7		達磨大師	木村雄山	15	
3	1905	7	7		道元禪師論	上館全靈	19	
3	1905	7	7		人格と其勢力	近藤愚童	24	
3	1905	7	7		非戰論を駁す	阿部得髓	27	
3	1905	7	7		メッテルニツヒを論ず	齋藤量孝	30	
3	1905	7	7		白衣怨	特別會員 中幡義堂	34	
3	1905	7	7		愛吟の詩歌	雜纂	42	
3	1905	7	7		お釋迦様(幼時の佛陀觀)	雜纂	45	
3	1905	7	7		休業の十分間	雜纂	49	
3	1905	7	7		我が人生觀	雜纂	60	
3	1905	7	7		觀天喜地	永松雲從	69	
3	1905	7	7		宮城野の春囃	齋藤量孝	70	
3	1905	7	7		春光	山崎任流	70	
3	1905	7	7		亡き友を憶ふ	柴田覺慧	72	
3	1905	7	7		四月八日	佐藤泰定	72	
3	1905	7	7		學窓雜記	柳澤仙三	74	
3	1905	7	7		弟を誡むる書	尾形賢童	75	
3	1905	7	7		吾が理想の人	齋藤仙峯	77	
3	1905	7	7		予が死後の觀念	高澤哲紳	78	
3	1905	7	7		桃太郎傳	岩崎傲謙	79	
3	1905	7	7		吾が教室	佐々木得月	81	
3	1905	7	7		さらば仙台よ	長谷川哲龍	82	
3	1905	7	7		梅雨點滴	雜纂	84	
3	1905	7	7	雜報	通信、學林記事、教友會記事		85	
4	1906	6	21	本領	仙臺と中學林		1	
4	1906	6	21		校歌なかる可からず	癡牛 濱田廉	3	
4	1906	6	21		山鹿素行論	文學士 濱田廉	5	
4	1906	6	21		吾が今後の宗教	菅井透非	9	
4	1906	6	21		時代と宗教	小川龍山	14	
4	1906	6	21		戦後之青年に對する要求	國下大慧	18	
4	1906	6	21		學生の本領を論ず	鳥海玉浮	21	
4	1906	6	21		自覺の信仰	松山宏堂	23	
4	1906	6	21		天分實現論	小原克禪	26	
4	1906	6	21		機會と活動	關 萬禪	30	
4	1906	6	21		我が敵何処にかある	平井龍三	35	
4	1906	6	21		吾人は須らく實踐修行なるべし	佐藤隆三	37	
4	1906	6	21	文苑	白雪河の夕	尾關	40	
4	1906	6	21	文苑	春の曙と秋の夕	説 宗坊	42	
4	1906	6	21	文苑	わが身	柳 蛙生	46	
4	1906	6	21	文苑	亡き友を想ふ	飯塚夢袋	47	
4	1906	6	21	文苑	自力の人たれ	佐藤泰定	49	
4	1906	6	21	修學旅行記	鎌先紀行	堀梅天	50	
4	1906	6	21	修學旅行記	松島紀行	尾形賢童	53	
4	1906	6	21	詩藻	からなる龍	蝶夢	56	
4	1906	6	21	詩藻	荒城の残月	すみ禮	58	
4	1906	6	21	短歌	いたづら草	残末生	60	
4	1906	6	21	短歌	『若葉かげ』	一村子	61	
4	1906	6	21	短歌	無題	井上	61	
4	1906	6	21	短歌	みだれ雲	夢袋	62	
4	1906	6	21	短歌	五月雨	平野	62	
4	1906	6	21	短歌	無題	岩溪	63	
4	1906	6	21	漢詩		大森東芸、水上越溪、金山玩月、石田青龍	63	
4	1906	6	21	俳句		梧道、東芸、得月、夢袋	64	
4	1906	6	21	川柳		井蛙、夢袋	66	
4	1906	6	21	雜纂	自己の目的(一年級即題)		67	
4	1906	6	21	雜纂	吾人の希望(二年級即題)		85	

4	1906	6	21	雑報			90	
4	1906	6	21	雑報	教友會記事		92	
4	1906	6	21	雑報	各部部報		93	
4	1906	6	21	雑報				
5	1907	6	5	表紙	還曆	翼賛員 川上爲之助		ページ無
5	1907	6	5	口繪	一、還曆の齢を迎ひ玉へし石月林長老師			ページ無
5	1907	6	5	口繪	二、第三回卒業生			ページ無
5	1907	6	5	口繪	三、村田運發購入記念演習に於ける五年級			ページ無
5	1907	6	5	口繪	四、今學年に於ける辨論部員			ページ無
5	1907	6	5	口繪	五、庭球部撰手			ページ無
5	1907	6	5	口繪	六、柔道部撰手			ページ無
5	1907	6	5		巻頭の辞		1	
5	1907	6	5		賀頌		7	
5	1907	6	5		還曆を迎ひ給へるを祝ひて	五 奥野説宗	10	
5	1907	6	5		林長老師の華甲を祝す	國下大慧	11	
5	1907	6	5		祝林長閣下之華甲之慶辰	四 岩間太陽	13	
5	1907	6	5		老梅樹	三 尾形賢童	15	
5	1907	6	5		祝林長老師之還曆	三 柳澤仙三	17	
5	1907	6	5		林長老師の耳順の齢を迎へられしを祝ふて	二 中山瑞芳	19	
5	1907	6	5		白翁老宗師の還曆を祝す	一 鈴木泰岳	19	
5	1907	6	5		還曆文	一 鈴木長造	21	
5	1907	6	5		還曆を祝ふて(和歌新体詩)		23	
5	1907	6	5		還曆(小説)	二 細越於禰乎	24	
5	1907	6	5	寄書	鳥羽の戀塚	翼賛員 紅於	29	
5	1907	6	5	寄書	吾人の希望	翼賛員 大森東芸	30	
5	1907	6	5	寄書	春の「さみしさ」	翼賛員 古調生	33	
5	1907	6	5	寄書	記念樹	特別會員 飯坂圓收	31	
5	1907	6	5	寄書	信念堅牢にせざるべからず	特別會員 佐々木露村	37	
5	1907	6	5	論説	自我觀	五 松山宏堂	39	
5	1907	6	5	論説	復活論	五 小原克禪	43	
5	1907	6	5	論説	天職を自覺せよ	五 庄司卓堂	48	
5	1907	6	5	論説	十年後の我	四 島海玉浮	51	
5	1907	6	5	論説	宗教的奮闘者	四 富樫祥雲	54	
5	1907	6	5	論説	佛敎は靈界の育児院なり	三 尾形賢童	57	
5	1907	6	5	論説	眞の成功は忍耐勉強にあり	三 鈴木育仙	60	
5	1907	6	5	論説	愛國心	三 平野覺惠	62	
5	1907	6	5	論説	向上の一路	三 平井龍三	66	
5	1907	6	5	論説	自信力と養成	三 齋藤仙峯	67	
5	1907	6	5	論説	愛國心	三 土屋禪勇	70	
5	1907	6	5	論説	彫刻家たらむと欲す	一 森道珠	71	
5	1907	6	5	論説	朋友	一 渡會佛海	72	
5	1907	6	5	論説	吾人の覺醒	一 鈴木泰岳	71	
5	1907	6	5	論説	鼻觀	からし山人	76	
5	1907	6	5	論説	前號「校歌なかるべからず」を読みて癡牛に與ふ 侃々子		79	
5	1907	6	5	文苑	臥山日記	特別會員 陸奥の流水禪人	81	
5	1907	6	5	文苑	樂しき一日休暇	五 佐々木犀月	84	
5	1907	6	5	文苑	濱の一日	五 石田青龍	86	
5	1907	6	5	文苑	亡き友佐野の君を憶む	四 山崎かすが	88	
5	1907	6	5	文苑	友を送る	四 富樫祥雲	89	
5	1907	6	5	文苑	春の遊び	三 美舟	90	
5	1907	6	5	文苑	山遊び	三 柳澤仙三	92	
5	1907	6	5	文苑	我が住家と鶯の物語	三 平野覺惠	94	
5	1907	6	5	文苑	寺のうしろ	三 春山謙從	96	
5	1907	6	5	文苑	春夜の想ひ	三 齋藤仙窟	96	
5	1907	6	5	文苑	樂しき我學校	二 佐藤隆三	96	
5	1907	6	5	文苑	我輩の宿は	二 矢留の雄の子	98	
5	1907	6	5	文苑	半日の散歩	二 藤野岩深	98	
5	1907	6	5	文苑	松島の夕ぐれ	二 芳人	101	
5	1907	6	5	文苑	春の思ひ	二 萩野誠月	102	
5	1907	6	5	文苑	菖蒲田の二十時間	一 黒澤書華	102	
5	1907	6	5	文苑	暮の眺め	一 新保行雄	106	
5	1907	6	5	文苑	夏の日	一 齋藤探源	106	
5	1907	6	5	文苑	汽車の一日	一 近範孝	107	
5	1907	6	5	文苑	教友會役員としての一年を謝す	花枝	108	
5	1907	6	5	文苑	秋田なる雄勝平鹿兩郡地方の方言	雄平坊	109	
5	1907	6	5	修學旅行記	一の關、中尊寺方面(甲の組)	五 佐藤信吾	111	
5	1907	6	5	修學旅行記	菖蒲田紀行(乙組)	二 飯塚夢袋	117	
5	1907	6	5	詩藻	夕の思	五 公孫樹	121	
5	1907	6	5	詩藻	松葉集	四 山崎かすが	122	
5	1907	6	5	詩藻	四季のながめ	四 島海孤客	125	
5	1907	6	5	詩藻	宮城野にさまよひて	一 不運子	126	
5	1907	6	5	和歌	歌五首	翼賛員 東芸	126	
5	1907	6	5	和歌	秋季修學旅行判官館跡にて	五 zK生	127	
5	1907	6	5	和歌	紅吟綠賦	二 夢袋生	127	
5	1907	6	5	和歌	春の歌膚	一 不運子	129	
5	1907	6	5	和歌	夕空	一 遠藤尚至	129	
5	1907	6	5	和歌	うすれ雲	一 鈴木徳豊	130	
5	1907	6	5	俳句	雜十句	特別會員 一村子	130	
5	1907	6	5	俳句	修學旅行の途中	五 悟道	130	
5	1907	6	5	俳句	雜三句	四 山崎かすが	131	
5	1907	6	5	俳句	雜吟	二 百合子	131	
5	1907	6	5	小説	辻占賣	特別會員 尾關俯仰	132	
5	1907	6	5	小説	權太塚	二 たへ子	137	
5	1907	6	5	學林記事	教職員氏名及學科分擔、級主任及級監氏名、生徒人名、第五學年度新入學生、第三回卒業生氏名、教員送迎		143	
5	1907	6	5		教友會各部々報		145	
5	1907	6	5		仙臺佛敎婦人會記事		163	
5	1907	6	5		寄贈雜誌		163	
5	1907	6	5		辭任の辞		164	
6	1908	7	15	口繪	校舎及び寄宿舍			ページ無
6	1908	7	15	口繪	第四回卒業生			ページ無
6	1908	7	15	口繪	教友會各部委員			ページ無
6	1908	7	15	論説	歴史論	濱田廉	1	
6	1908	7	15	論説	釋尊の出現と當時の感化	水上興基	11	
6	1908	7	15	論説	佛弟子論	國下大慧	15	
6	1908	7	15	論説	現代の青年と宗教	島海玉浮	19	
6	1908	7	15	論説	運如上人の種誦主義	尾形賢童	25	
6	1908	7	15	論説	本邦道徳維持者を論じて青年佛敎徒の覺悟に及ぶ	柳澤仙三	28	
6	1908	7	15	論説	我國民の宗教	鈴木育仙	31	
6	1908	7	15	論説	自覺	平野覺惠	34	
6	1908	7	15	論説	厭世家を論ず	加々美環明	38	
6	1908	7	15	論説	社會主義を難す	細谷全明	42	
6	1908	7	15	論説	吾人の信仰	佐藤隆三	44	
6	1908	7	15	論説	吾人眞正の目的	金森成滿	47	
6	1908	7	15	文苑	故郷忍	古調生	50	
6	1908	7	15	文苑	都の花	梅天生	51	
6	1908	7	15	文苑	小品五題	入嚙生	52	
6	1908	7	15	文苑	月下の懷舊	見理周剛	54	
6	1908	7	15	文苑	田舎の春	龍羽賢三	56	
6	1908	7	15	文苑	露の曙	齋藤仙峯	57	
6	1908	7	15	文苑	落花を見亡き友を憶ふ	萩野幸盛	58	
6	1908	7	15	文苑	露の袖	山崎かすが	59	
6	1908	7	15	雜纂	太閤文學	翼賛員 濱田廉	61	
6	1908	7	15	雜纂	ことつて草	特別會員 飯坂圓收	67	
6	1908	7	15	雜纂	梅を訪ふ記	翼賛員 菅澤修己	70	
6	1908	7	15	雜纂	寄宿舍の一日	幽溪	70	
6	1908	7	15	雜纂	新校舎雜感	蒲蘆	74	
6	1908	7	15	雜纂	榮子の墓	規外生	75	
6	1908	7	15	雜纂	海と山	加々美環明	77	
6	1908	7	15	雜纂	嗚呼父は逝けるか	太田騰雲	80	
6	1908	7	15	雜纂	櫻と人	計良淨一	82	
6	1908	7	15	雜纂	歸省日記	新保孤濤	84	

6	1908	7	15	雑纂	落花を見て感あり	奥村徹巖	87	
6	1908	7	15	雑纂	樂しかりしこと悲しかりしこと	失名生	88	
6	1908	7	15	雑纂	太平山に登る記	今範孝	89	
6	1908	7	15	雑纂	七種神	高田泰全	89	
6	1908	7	15	雑纂	山吹の記	佐藤得道	90	
6	1908	7	15	雑纂	苦熱苦言	也也生	91	
6	1908	7	15	詞藻	出陣	翼賀員 残禾	93	
6	1908	7	15	詞藻	望郷	山崎かすが	94	
6	1908	7	15	詞藻	百合の花	たへ子	94	
6	1908	7	15	詞藻	法の泉	伊藤秀明	95	
6	1908	7	15	詞藻	心のすさび	高澤孤客	96	
6	1908	7	15	詞藻	旅枕	竹内越岸	97	
6	1908	7	15	詞藻	教友諸君に	ゆき子	98	
6	1908	7	15	和歌	秀草集	翼賀員 残禾	99	
6	1908	7	15	和歌	靈の香	飯塚夢袋	99	
6	1908	7	15	和歌	潮草	伊藤秀明	101	
6	1908	7	15	和歌	白樺	鈴木徳豊	102	
6	1908	7	15	和歌	花の唇	大坂得明	102	
6	1908	7	15	和歌	學林の發展を祝ひて	大田巨山	103	
6	1908	7	15	俳句	葉汁會吟	葉汁會同人	103	
6	1908	7	15	漢詩	一首	翼賀員 大山俊亮	105	
6	1908	7	15	漢詩	一首	翼賀員 大森知言	105	
6	1908	7	15	漢詩	雜吟十首	特別會員 嶺雨仙史	106	
6	1908	7	15	漢詩	六首	相澤太玄	107	
6	1908	7	15	漢詩	三首	奥村徹巖	107	
6	1908	7	15	小説	別れの曲	特別會員 なつむし生	108	
6	1908	7	15	小説	綠園	夢袋	113	
6	1908	7	15	記事	學林記事		117	
6	1908	7	15	記事	教友會記事		119	
7	1909	6		口繪	第五回卒業生			ページ無
7	1909	6		口繪	教友會新舊各部委員			ページ無
7	1909	6		論説	織田信長と佛教との關係を論ず	翼賀員 濱田廉	1	
7	1909	6		論説	佛教者の社會的事業	翼賀員 横田泰邦	5	
7	1909	6		論説	文章論	翼賀員 菅澤修己	14	
7	1909	6		論説	凡聖不二論	藤野惠海	17	
7	1909	6		論説	宗教家の修養	鈴木育仙	21	
7	1909	6		論説	吾人と戊申詔書	柳澤仙三	23	
7	1909	6		論説	春の青年	佐藤隆三	28	
7	1909	6		論説	宗教と法律	細谷全明	32	
7	1909	6		論説	THE LABOUR	H.Makihara.	36	
7	1909	6		文苑	墓詣で	翼賀員 古調生	38	
7	1909	6		文苑	通夜	特別會員 乾外生	41	
7	1909	6		文苑	亡き友を懐か	福羽賢三	43	
7	1909	6		文苑	同氣寮の記	やどり木	45	
7	1909	6		文苑	夏衣	さゆり生	47	
7	1909	6		文苑	定義の奥	ぶんせん	50	
7	1909	6		文苑	嫌やな感志	呪はれの人	52	
7	1909	6		文苑	梵鐘の響に湖棹の君をしのぶ	柳澤梅弘	53	
7	1909	6		文苑	經塚山麓の夕	井上狂蝶	56	
7	1909	6		文苑	日記の一節	新保孤濤	58	
7	1909	6		文苑	蝶まつり	しづえ	63	
7	1909	6		俳句	かほる風	葉汁會同人 △さゆり△梅弘△ 壹公△秋の舎△千はる△いつ 齋△馬家公△奇鳴△はぎの△ ふう月△廣外△志ん子△あの 上△幽里	64	
7	1909	6		修學旅行記	雲の水尾	飯塚夢袋	68	
7	1909	6		修學旅行記	松島に遊ぶ記	齋藤探源	82	
7	1909	6		我が寮	千葉万紅	各寮長	87	
7	1909	6		詩	忍び言	翼賀員 新花	102	
7	1909	6		詩	白蓮	夢袋生	104	
7	1909	6		詩	現夢	小林鬼鳴	105	
7	1909	6		詩	離別	平野覺恵	106	
7	1909	6		詩	春野のもだえ	ゆき子	109	
7	1909	6		詩	吾が今昔	相澤嘯岬	110	
7	1909	6		詩	天つ姫	淡水	111	
7	1909	6		詩	狼	松井柏葉	113	
7	1909	6		詩	魔が淵	夢袋生	113	
7	1909	6		雑纂	韓信蒲伏於跨下之辯	翼賀員 濱田廉	114	
7	1909	6		雑纂	宗教上の嬰節漢	翼賀員 聖觀婆羅門	119	
7	1909	6		雑纂	蝸牛日記	特別會員 吞牛生	128	
7	1909	6		雑纂	無駄口	白眼生	126	
7	1909	6		雑纂	委員月旦	月旦子	132	
7	1909	6		雑纂	危機と覺醒	平野覺恵	138	
7	1909	6		雑纂	一切苦危	竹内越岸	142	
7	1909	6		雑纂	郊外散歩	八脚生	143	
7	1909	6		雑纂	春の川に寄す	丸山廣外	145	
7	1909	6		雑纂	磯鏡	小澤文義	145	
7	1909	6		雑纂	小品二題	山中慈仙	146	
7	1909	6		雑纂	古郷の夏	ゆき子	147	
7	1909	6		雑纂	荒濱に遊ぶ記	佐藤得道	150	
7	1909	6		雑纂	富士登山の記	大飼道波	150	
7	1909	6		雑纂	秋夜の感	竹内越岸	153	
7	1909	6		雑纂	そら思ひ	規外生	154	
7	1909	6		雑纂	The lateriser and the monnig-glories	K.Miura	157	
7	1909	6		雑纂	My Pitiful younger sister.	H.Makihara	158	
7	1909	6		短歌	いにいける胸	飯塚夢袋	159	
7	1909	6		短歌	小雪洞	秋の舎	160	
7	1909	6		短歌	藤姫	鈴木夢香	160	
7	1909	6		短歌	朝霧	蕨山人	161	
7	1909	6		短歌	あは雪	ひら野	162	
7	1909	6		短歌	夏の木立	太田騰雲	163	
7	1909	6		小説	春	特別會員 みのむし生	163	
7	1909	6		小説	煩悶生	尾形規外	173	
7	1909	6		小説	面影	鈴木夢香	179	
7	1909	6		小説	兄と妹	片桐紅葉	186	
7	1909	6		漢詩	二首	横尾賢宗	190	
7	1909	6		漢詩	五首	翼賀員 黒木顯道	190	
7	1909	6		漢詩	一首	翼賀員 大森知言	191	
7	1909	6		記録	學林記事		192	
7	1909	6		記録	編輯便り		209	
7	1909	6		記録	教友會記事		193	
8	1910	6	15	口繪	第六回卒業生(寫真版)			ページ無
8	1910	6	15	口繪	教友會の中堅(寫真版)			ページ無
8	1910	6	15	法眼語	勸勉	横尾賢宗	2	
8	1910	6	15	法眼語	完全なる宗教の要素	菊地俊友	6	
8	1910	6	15	論説	現代の特色と佛教	横田泰邦	12	
8	1910	6	15	論説	宗教の貴族化に就いて	鳴海夜濤	18	
8	1910	6	15	論説	自然の感化	堀梅天	23	
8	1910	6	15	論説	斷臂二相慧可大師と求道心	柳澤仙三	29	
8	1910	6	15	漢詩	道遠淨妙園	横尾幽石	36	
8	1910	6	15	漢詩	瑞雲掃曳兜山麓	大森知言	36	
8	1910	6	15	漢詩	天鷲嘯嘯曙光催	幽谷	37	
8	1910	6	15	説苑	縣犬養格宿禰三千代	濱田廉	38	
8	1910	6	15	説苑	兼好法師	雲外	50	
8	1910	6	15	敘述文	表日本から裏日本へ	夢袋生	60	
8	1910	6	15	小品文	山の友へ	佐々木眠海	70	
8	1910	6	15	敘述文	追想	福羽盤泉	72	
8	1910	6	15	俳句	狸寝入り	梧庵	78	
8	1910	6	15	雑纂	弟論	木樨	82	
8	1910	6	15	雑纂	新教壇の叫び	中泉琴風	87	
8	1910	6	15	雑纂	亡き母に	吞牛	90	

8	1910	6	15	雑纂	人生と流水	太田謙雲	92	
8	1910	6	15	雑纂	品性を陶冶せよ	近藤孝	95	
8	1910	6	15	雑纂	"ONLY"と"TOO"	博生	104	
8	1910	6	15	雑纂	数学の面白味	渡會宗慈	107	
8	1910	6	15	詩	影ある夜	小松北鳴	111	
8	1910	6	15	詩	春之助、心のかげら	夢袋生	114	
8	1910	6	15	小説	五厘ぼつち	白百合	118	
8	1910	6	15	短歌	囁囁囁囁	飯塚夢袋	127	
9	1911			短歌	第七回卒業生	教友會幹部	ページ無	
9	1911			説苑	立志説	會長 横尾賢宗	1	
9	1911			説苑	安土宗論	翼賛員 濱田康	6	
9	1911			説苑	現代の吾國語に就て	翼賛員 大矢泰英	19	
9	1911			説苑	人生の幸福を論ず	近藤孝	26	
9	1911			説苑	予が宗教觀	大岸良順	29	
9	1911			説苑	無垢の人に就て	藤井隆綱	32	
9	1911			説苑	同情を論じて我が國家に及ぶ	小野光輝	36	
9	1911			説苑	猪の年々頭の所感	最上道光	41	
9	1911			文苑	樺の下	井上馨花	47	
9	1911			文苑	亡き友の墓前	渡邊繁雄	54	
9	1911			文苑	胎内寶	高谷達道	56	
9	1911			文苑	暑夜亡母を憶ふ	栗田秀清	61	
9	1911			文苑	春の我が心	紫竹生	63	
9	1911			文苑	歸郷	齋藤道成	67	
9	1911			文苑	春週間の日記	齋藤大智	69	
9	1911			文苑	第四五年級修學旅行記	三浦甚之進	73	
9	1911			文苑	第二三年級修學旅行記	佐々木昭果	89	
9	1911			文苑	松島旅行の記	瀬川午朗	94	
9	1911			漢詩	佛忍師頌德碑	洞沙門賢宗讀文	97	
9	1911			漢詩	性海慈航禪師七十七壽言	横尾賢宗	98	
9	1911			漢詩	京都懷古	翼賛員 吉田幽谷	99	
9	1911			漢詩	敬辛亥新正	藤井隆綱	100	
9	1911			小品文	あゝ寂しい	藤井生	101	
9	1911			小品文	夜の長町橋	雲公	101	
9	1911			小品文	窓の眺め	鹿夢生	101	
9	1911			小品文	近頃は	ばんか	102	
9	1911			小品文	林	輪月	102	
9	1911			小品文	三日月	高谷達道	103	
9	1911			小品文	暮れ行く日	真崎桐水	103	
9	1911			小品文	散歩	松田亮孝	103	
9	1911			小品文	陰気な裏小路	渡邊愛琴	104	
9	1911			小品文	春の野邊	掬水生	104	
9	1911			小品文	飯岡先生	瀬川午朗	104	
9	1911			小品文	うしろ姿	輕部雲琴	105	
9	1911			小品文	夏の眞晝	啜果生	105	
9	1911			小品文	うなだれ行く人	妖嬌	106	
9	1911			小品文	散文詩	ばんか生	106	
9	1911			短歌	仁丹を噛めるが如き心地	特別會員 飯塚夢袋	109	
9	1911			短歌	春の野邊	特別會員 巨山庵主人	111	
9	1911			短歌	春の晩に	天野屋夢	112	
9	1911			短歌	疲れし心	佐々木昭果	113	
9	1911			短歌	灰色の雨雲	井上馨花	115	
9	1911			短歌	アークの光り	白風生	117	
9	1911			俳句	雑吟	栗汁會同人	120	
9	1911			記事	學林記事		123	
9	1911			記事	教友會記事		124	
9	1911			部報	文藝部報		126	
9	1911			部報	辯論部報		128	
9	1911			部報	柔道部報		131	
9	1911			部報	拳銃部報		133	
9	1911			部報	庭球部報		136	
9	1911			部報	野球部報		139	
9	1911			部報	編輯部報		142	
10	1912	7	5	写真版	一創立第十週年記念撮影(職員生徒一同)		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	二創立以來の三林長、三創立以來就職せらるゝ三先生		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	四第八回卒業生		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	五教友會の幹部		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	六辯論庶務文藝部記念撮影		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	七庭球野球部記念撮影		ページ無	
10	1912	7	5	写真版	八柔道拳銃部記念撮影		ページ無	
10	1912	7	5	記念欄	曹洞宗第二中學林十年史	翼賛員 濱田康	1	
10	1912	7	5	記念欄	教友會を愛慕す	石月無外	11	
10	1912	7	5	記念欄	修業	黒木顯道	14	
10	1912	7	5	記念欄	十週年記念に就いて	會長 横尾賢宗	15	
10	1912	7	5	記念欄	創立時代の教友會	飯塚圓收	18	
10	1912	7	5	記念欄	拾遺目	山田望三郎	22	
10	1912	7	5	記念欄	文芸部回顧録	翼賛員 新花小史	25	
10	1912	7	5	記念欄	アメリカより	特別會員 堀梅天	34	
10	1912	7	5	記念欄	思ひ出	特別會員 坂澤生	39	
10	1912	7	5	記念欄	余が眼に映じたる石月林長	特別會員 菅井一村	41	
10	1912	7	5	記念欄	十年前の思ひ出	特別會員 小川静水	49	
10	1912	7	5	記念欄	青門中學と赤門中學	特別會員 湯谷信吾	51	
10	1912	7	5	記念欄	忘れぬ記	特別會員 山崎透生	58	
10	1912	7	5	記念欄	記憶	特別會員 堀外生	63	
10	1912	7	5	記念欄	鈍物ノ腦中一物ナシ	特別會員 鹿野徳順	64	
10	1912	7	5	記念欄	鈍に鐵石を浮べたやうな時代	特別會員 夢袋生	65	
10	1912	7	5	記念欄	不平と疑惑	特別會員 原許慈	67	
10	1912	7	5	記念欄	帝都より	特別會員 浦鶴林	76	
10	1912	7	5	記念欄	卒業の感想	特別會員 福保隆泉	81	
10	1912	7	5	記念欄	東二學時代の回想	特別會員 堀梅天	82	
10	1912	7	5	記念欄	在學中の感想と印象	特別會員 山田雲涯	82	
10	1912	7	5	記念欄	修業主筆	特別會員 三宅俊雄	83	
10	1912	7	5	記念欄	明日は日曜	特別會員 藤井隆綱	84	
10	1912	7	5	記念欄	筆にまかせて	之五年 佐々木民海	86	
10	1912	7	5	論説	支那革命論	翼賛員 濱田康	93	
10	1912	7	5	論説	森林の宗教と原野の宗教	特別會員 嶋海夜瀟	102	
10	1912	7	5	論説	農村救済論	特別會員 鈴木徳豊	109	
10	1912	7	5	論説	勤勉な礼教友子	教友 新長行雄	113	
10	1912	7	5	論説	思しむ者に寄す	甲五年 小野光輝	117	
10	1912	7	5	論説	文朗論	甲五年 最上道光	121	
10	1912	7	5	論説	那翁を追憶す	甲五年 栗原久作	130	
10	1912	7	5	論説	職家の貴賤有無論	甲五年 北條泰極	134	
10	1912	7	5	論説	青春年の進路	之五年 山中慈仙	137	
10	1912	7	5	文藝	文藝 読まれた孤兒	特別會員 露衣生	142	
10	1912	7	5	文藝	追憶	甲五年 益壽生	143	
10	1912	7	5	文藝	よき夢	甲五年 中村廣	146	
10	1912	7	5	文藝	冬の夜	之五年 下山紫葉	147	
10	1912	7	5	文藝	一夜の喧出	之五年 ファーマース、サン	148	
10	1912	7	5	文藝	小學時代の一先生	四年 眞崎忠道	149	
10	1912	7	5	文藝	阪省	四年 阿部徳孝	152	
10	1912	7	5	文藝	難船の夜	四年 渡邊愛琴	154	
10	1912	7	5	文藝	月下の雪林	四年 掬水生	155	
10	1912	7	5	書翰	海の美	三年 大塚孝順	157	
10	1912	7	5	書翰	教友會へ	特別會員 堀梅天	158	
10	1912	7	5	書翰	都より	特別會員 小川静水	162	
10	1912	7	5	書翰	春の町より	之五年 井上馨花	167	
10	1912	7	5	書翰	波瀾に立てる我が友へ	三年 大塚孝順	171	
10	1912	7	5	漢詩	承徳大師降誕會	會長 横尾賢宗	172	
10	1912	7	5	漢詩	雨香翁見訪	翼賛員 吉田悦宗	172	
10	1912	7	5	漢詩	坐禪訓	翼賛員 金山玩月	173	
10	1912	7	5	旅行記	第五學年級修學旅行記	五年 齋藤生	173	
10	1912	7	5	旅行記	中尊寺に遊ぶ	四年 佐々木民海	186	

10	1912	7	5	旅行記	金華山修學旅行記	三年 渡邊繁雄	193	
10	1912	7	5	旅行記	修學旅行記	二年 瀬川午朗	200	
10	1912	7	5	旅行記	松島旅行記	一年 中里泰雄	204	
10	1912	7	5	短文	深夜の閑	甲五年 小野光禪	206	
10	1912	7	5	短文	蛙	乙五年 スタンデンフラワー	207	
10	1912	7	5	短文	雪晴	四年 真崎洵水	207	
10	1912	7	5	短文	盆踊り	四年 渡邊愛琴	208	
10	1912	7	5	短文	渡場	四年 國井善道	208	
10	1912	7	5	短文	冬の夜	四年 末位柏葉	208	
10	1912	7	5	短文	銭雲英さん	三年 土田良康	209	
10	1912	7	5	短文	野火	三年 齋藤大智	210	
10	1912	7	5	短文	田圃道	三年 鈴木宗孝	210	
10	1912	7	5	短文	春の川	三年 輕部雪岑	210	
10	1912	7	5	短文	朝寝坊	三年 五ノ上道映	211	
10	1912	7	5	短文	小池の蛙	三年 中村天明	211	
10	1912	7	5	短文	やもめ鳩	三年 川口吞海	212	
10	1912	7	5	短文	春の野	三年 齋藤大智	212	
10	1912	7	5	短文	手の働き	一年 堀口達明	213	
10	1912	7	5	短文	忠実に誠実に	一年 旭水生	213	
10	1912	7	5	新體詩	法の武士	特別會員 山崎としを	214	
10	1912	7	5	新體詩	異調篇	乙五年 井上盤花	215	
10	1912	7	5	新體詩	山寺の真畫	四年 渡邊愛琴	216	
10	1912	7	5	新體詩	夏の夜	四年 真崎洵水	217	
10	1912	7	5	和歌	春がたみ	特別會員 飯塚夢袋	218	
10	1912	7	5	和歌	思ひ出	特別會員 太田勝雲	219	
10	1912	7	5	和歌	玉造温泉及塗上にて	甲五年 天野道隆	220	
10	1912	7	5	和歌	活字となす日	乙五年 佐々木露花	221	
10	1912	7	5	和歌	落日の光	乙五年 井上盤花	222	
10	1912	7	5	和歌	東郊漫吟	四年 渡邊愛琴	223	
10	1912	7	5	和歌	春の歌	四年 真崎洵水	224	
10	1912	7	5	和歌	秋の水	三年 瀬川午朗	224	
10	1912	7	5	俳句	花吹雪	會友 梧秋庵風書	225	
10	1912	7	5	俳句	狂煙集	たそがれ會	226	
10	1912	7	5	俳句	花の香	乙五年 山中松聲	227	
10	1912	7	5	俳句	蝶	四年 渡邊愛琴	227	
10	1912	7	5	俳句	春夏秋冬	四年 真崎洵水	227	
10	1912	7	5	俳句	青柳	三年 瀬川午朗	228	
10	1912	7	5	記事	第十年度學林記事		228	
10	1912	7	5	記事	庶務部記事		229	
10	1912	7	5	記事	辯論部記事		233	
10	1912	7	5	記事	庭球部記事		238	
10	1912	7	5	記事	野球部記事		241	
10	1912	7	5	記事	柔道部記事		245	
10	1912	7	5	記事	擊劍部記事		249	
10	1912	7	5		編輯だより		252	
10	1912	7	5	付録	卒業生の消息、現在生徒寺籍一覽			ページ無
11	1913	3	26	表紙	會長 横尾賢宗			ページ無
11	1913	3	26		寫真版二葉			ページ無
11	1913	3	26	論説	醫策之一節	副會長 菊地俊友	2	
11	1913	3	26	論説	吾が教友諸君に望む	翼賛員 大矢泰英	4	
11	1913	3	26	論説	王陽明の青年時代	翼賛員 五十嵐了悟	8	
11	1913	3	26	論説	宗教とは何ぞや	五年 山中慈仙	13	
11	1913	3	26	論説	神秘の世界	五年 井上俊英	19	
11	1913	3	26	論説	煩悶小觀	五年 駒ヶ嶺泰明	25	
11	1913	3	26	論説	如何にして希望を實現すべきや	五年 立花遼生	32	
11	1913	3	26	論説	小説論	四年 庄司仙芳	37	
11	1913	3	26	論説	我が將來の覺後	三年 加藤玉風	38	
11	1913	3	26	論説	幽霊觀	四年 高原玄珠	40	
11	1913	3	26	感想	隨想隨筆	五年 佐々木露花	44	
11	1913	3	26	散文	初春の田舎	四年 真崎洵水	48	
11	1913	3	26	散文	夜なが	三年 横山蘆水	50	
11	1913	3	26	散文	梅雨の一日	三年 中村天明	52	
11	1913	3	26	散文	つぼみ	三年 大塚孝順	53	
11	1913	3	26	散文	發火演習之記	三年 加藤玉風	53	
11	1913	3	26	散文	思ひ出	二年 中野松志	55	
11	1913	3	26	散文	松島修學旅行記	一年 長尾禪悅	56	
11	1913	3	26	漢詩	大正癸丑新正	會長 横尾賢宗	58	
11	1913	3	26	漢詩	叡山	翼賛員 吉田幽谷	58	
11	1913	3	26	漢詩	癸丑新正	三年 鈴木宗孝	59	
11	1913	3	26	書翰	無意味なる黒板との對座をIO君へ	五年 露花生	60	
11	1913	3	26	短文	自炊	五年 仁藤大勇	65	
11	1913	3	26	短文	雪の夜	四年 真崎洵水	65	
11	1913	3	26	短文	教室	四年 渡邊愛琴	65	
11	1913	3	26	短文	人生	三年 横山蘆水	65	
11	1913	3	26	短文	静か夜	三年 大塚孝順	66	
11	1913	3	26	短文	有縁無縁	三年 輕部雪岑	66	
11	1913	3	26	短文	愁の雲	三年 横山蘆水	67	
11	1913	3	26	短文	夜中	二年 宇野泰言	67	
11	1913	3	26	短文	なつかしき峠	一年 上島泰岳	67	
11	1913	3	26	新體詩	試作五篇	五年 井上盤花	68	
11	1913	3	26	新體詩	推き詩	五年 佐々木露花	68	
11	1913	3	26	新體詩	ゆける友	五年 大友憲壽	70	
11	1913	3	26	新體詩	夜の雪	四年 真崎洵水	70	
11	1913	3	26	新體詩	自然の衰	四年 渡邊愛琴	71	
11	1913	3	26	短歌	淋しき道	特別會員 飯塚夢袋	72	
11	1913	3	26	短歌	老けにける冬	五年 佐々木露花	72	
11	1913	3	26	短歌	青き眼	五年 井上盤花	73	
11	1913	3	26	短歌	思ひでの春	四年 真崎洵水	74	
11	1913	3	26	短歌	先帝陛下奉弔歌	三年 横山蘆水	75	
11	1913	3	26	短歌	琴の音	三年 中村天明	76	
11	1913	3	26	短歌	秋萩	四年 松田亮孝	77	
11	1913	3	26	短歌	雪の夜	三年 熊谷道弘	77	
11	1913	3	26	俳句	枇杷の花	會友 梧秋庵風書	78	
11	1913	3	26	俳句	奉饗句	五年 佐々木露花	78	
11	1913	3	26	俳句	冬の花	五年 駒ヶ嶺天外	78	
11	1913	3	26	俳句	あつめ草	四年 真崎洵水	79	
11	1913	3	26	俳句	百合	四年 渡邊愛琴	79	
11	1913	3	26	俳句	雪花集	三年 中村天明	79	
11	1913	3	26	俳句	雪達集	三年 大塚孝順	80	
11	1913	3	26	俳句	鶯	三年 田村顯晃	80	
11	1913	3	26	俳句	黄鳥	三年 川口吞海	80	
11	1913	3	26	俳句	落梅集	二年 新田智仙	81	
11	1913	3	26	俳句	うめ草	出鶴目會同人	81	
11	1913	3	26		第拾一學年度學林記事	八二	82	
11	1913	3	26		各部々報	八二	82	
12	1914			寫真版	第十回卒業生			ページ無
12	1914			寫真版	教友會の幹部			ページ無
12	1914			講演	性海慈船禪師垂訓	(森田悟由)	1	
12	1914			講演	曹洞宗門の學生諸君に望む	文學士 三好愛吉	5	誌名『教友』に変更
12	1914			講演	充實せる生活	木村泰賢	10	
12	1914			論説	鎌倉文學に現れたる佛教	翼賛員 濱田康	2	
12	1914			論説	戦近教育の情勢	翼賛員 横田泰邦	21	
12	1914			論説	東北佛教界振興方策論	特別會員 最上道光	26	
12	1914			論説	佛教の過去未來を論ず	五年 伊藤俊光	36	
12	1914			論説	龍川の水に耳を洗ひ・賢人を難す	五年 高谷達道	51	
12	1914			論説	調和的發達の必要	五年 高原玄珠	54	
12	1914			論説	増進を讀む	五年 真崎忠道	58	
12	1914			論説	今後の文學者に対する余が希望	五年 庄司仙芳	61	
12	1914			論説	愁眉を開いて思想の扉を見よ	四年 土田良康	65	
12	1914			論説	自然と釋尊	四年 齋藤大智	82	
12	1914			論説	人生に存する宗教の價値	四年 赤座信雄	87	
12	1914			雜録	鼠糞録	特別會員 天野道隆	1	

12	1914		雑録	呪はれたる青年	五年 海野義雄	8	
12	1914		雑録	木村重成	三年 中野松志	10	
12	1914		文藻	冬に入る	五年 真崎洵水	2	
12	1914		文藻	淋しみ光	五年 渡邊愛琴	4	
12	1914		文藻	盤神山	五年 島谷達道	8	
12	1914		文藻	家さき	五年 旭水生	9	
12	1914		文藻	夜の影	四年 横山産水	122	
12	1914		文藻	暮愁	四年 輕部雪岑	14	
12	1914		文藻	秋の夕	四年 齋藤大智	16	
12	1914		文藻	どちらがよからうか	三年 新田智仙	18	
12	1914		文藻	歸るさ	三年 信樂隨惠	20	
12	1914		書簡文	悔悟の涙(東都の友よりの書簡の一節)	五年 枕流生	2	
12	1914		書簡文	故郷の友S…君へ	五年 伊藤俊光	3	
12	1914		書簡文	窓にもたれてH君へ	四年 大塚孝順	5	
12	1914		英語(新體詩)	"FAREWELL"(Blankverse)	B. Hori	1	
12	1914		漢詩	大正甲寅元旦	會長 横尾賢宗	1	
12	1914		漢詩	松島舟中作	翼賛員 吉田悦宗	1	
12	1914		短文	深夜	五年 真崎忠道	2	
12	1914		短文	湯ノ濱の夏の暮	五年 國井憲道	2	
12	1914		短文	夕暮の川	四年 川口賢龍	2	
12	1914		短文	日曜日の朝	四年 吉田元貞	3	
12	1914		短文	春日和	二年 堀口葦水	3	
12	1914		短文	ふるさとの冬を懐ふ	二年 佐藤芳雄	3	
12	1914		短文	亡き母を呼ぶ弟	二年 小島武	4	
12	1914		短文	夏の夕	二年 遠藤徹山	4	
12	1914		短文	元旦の記	一年 高橋渡	4	
12	1914		短文	夜汽車	一年 菊地金龍	5	
12	1914		新體詩	幼き日より	五年 真崎洵水	2	
12	1914		新體詩	寂しさ	五年 松田亮孝	3	
12	1914		新體詩	呪詛の色	五年 渡邊愛琴	4	
12	1914		新體詩	旅人	五年 有田大宗	5	
12	1914		新體詩	暗の夜	四年 横山産水	5	
12	1914		新體詩	不老山の有影	四年 長谷好舟	6	
12	1914		新體詩	細民に代りて	二年 長尾禪悦	7	
12	1914		和歌	白足袋	特別會員 佐々木露花	2	
12	1914		和歌	毒草	特別會員 駒ヶ嶺天外	3	
12	1914		和歌	冬のうすれ日	五年 真崎洵水	4	
12	1914		和歌	孤獨	五年 渡邊愛琴	5	
12	1914		和歌	山茶花	五年 松田亮孝	6	
12	1914		和歌	旅に七年	五年 有田大宗	7	
12	1914		和歌	瘦れたるこゝろ	四年 横山産水	7	
12	1914		和歌	かなたの空	四年 土田まさる	8	
12	1914		和歌	温泉の宿	四年 赤座星夢	9	
12	1914		和歌	旅こゝろ	四年 熊谷露村	10	
12	1914		和歌	白梅の庭	四年 吉田元貞	11	
12	1914		和歌	青桐の氣	一年 佐竹文雄	11	
12	1914		和歌	春の日	一年 嵯峨素山	11	
12	1914		俳句	卒塔婆小町	會友 梧秋庵風書	2	
12	1914		俳句	初風	特別會員 佐々木露花	2	
12	1914		俳句	斷臂の夜	特別會員 駒ヶ嶺天外	3	
12	1914		俳句	むさび	五年 真崎洵水	3	
12	1914		俳句	春の暮	五年 阿部得榮	3	
12	1914		俳句	春の水	五年 庄司仙芳	4	
12	1914		俳句	惜春	四年 輕部雪岑	4	
12	1914		俳句	春の町	四年 赤座星夢	4	
12	1914		俳句	茶の間の梅	四年 吉田元貞	4	
12	1914		俳句	福壽草	四年 川口賢龍	4	
12	1914		俳句	桃の花	二年 堀口葦水	5	
12	1914		俳句	菊日和	二年 高橋博之	5	
12	1914		俳句	寒	二年 吉住翠露	5	
12	1914		俳句	雪達磨	一年 菊地金龍	5	
12	1914		記事	第十二學年度學林記事		2	
12	1914		記事	庶務部報		2	
12	1914		記事	辯論部報		5	
12	1914		記事	文藝部報		7	
12	1914		記事	野球部報		8	
12	1914		記事	擊劍部報		10	
12	1914		記事	柔道部報		14	
12	1914		記事	庭球部報		12	
12	1914		付録(紀行文)	山形紀行	五年 真崎忠道	1	
12	1914		付録(紀行文)	日光山紀行	四年 土田良康	18	
12	1914		付録(紀行文)	山寺紀行	三年 三原自照	37	
12	1914		付録(紀行文)	石巻紀行	二年 榎本玄光	47	
12	1914		付録(紀行文)	松島紀行	一年 高村禪雄	54	